**なんでRing(高齢者)のご案内**

**テーマ「楽塾の活動について」**

**ゲストスピーカー：**

**株式会社ナイス　くらし応援室　室長　佐々木敏明様**

**2018/7/27 (金)　15：00-17：00**

**大阪保護観察所**

大阪合同庁舎第4号館5階　地下鉄谷町四丁目5号出口すぐ

**参加費：無料**

**（定員　40名　集まり次第締め切らせていただきます）**

**出欠締切7月２6日（木）**

**参加申込書**

名前：

所属・ご社名：

職種：

ご連絡先：

E-mail:

**楽塾について質問がある方は下記に記入お願いします。**

一般社団法人よりそいネットおおさか　(大阪府地域生活定着支援センター)

担当：當、山田

TEL : 06-6762-8644

FAX : 06-6762-8645　　E-mail : <[atari@oosaka-teichaku.jp](mailto:atari@oosaka-teichaku.jp)

**楽塾のプロフィール**

18.７.27佐々木敏明

**１．楽塾前史**

　ホームレスへの応援活動は、私にホームレスという現実が、障害や刑余、あらゆる依存や家族喪失などを背景に包み込んでいるベールだと教えてくれた。当事者からの相談ごとや仕事への斡旋を通し、自身の仕事へのモチベーションは高まりはしたが、反面、身近にいる彼等のうめきや孤独感の声が「支援」という言葉の空虚さを強めていく。つまり“支援と被支援”というおもしろくもない非対称を継続していくのである。『くらし応援室』という名称は、そんな関係性にしたくないと考えた名称であった。

　くらし応援室の作業は、当事者の様々な生活相談にわたったが、それらの問題が解決したとしても、なおホームレスな生活習慣からは脱せず、ギャンブルやアルコールの依存からはそのままだし、金銭の貸し借りも続く。そこで、くらし応援室にきてくれた人たちを中心に、暇つぶしに、作業の帰り道に、または生き直ししたい人たちに「学校」という場を提供したいと考えたのであった。

　学校構想は、従来の学校の形式を踏襲し、官式の学習を模倣したわけではない。開校１年前から、就労に協力してくれる企業家や、当事者、中、高、大学時代の友人、　院生、恩師、当社社長、社員を巻き込み、「大人の学校づくり」開設のためのWS(ワークショップ)を開始した。「学校とはなんや？」である。

　学校のキャッチフレーズを、「あそびを学び　まなびを遊ぶ」とし、あそびながら何かを学び、まなびの中からいろいろ遊びを見つけていく授業をつくる意図とした。それは雑多で頭をマッサージするような、多面性ある綜合学習のようなイメージだったと思う。このWSに参加してもらった人たちの多くを、WS修了１年後、わが学校『楽塾』と名付けられたこの学校のゲスト講師に無理やり押し付けたのが、楽塾の推進力となったのである。

**２．楽塾の運営形態・基金**

私たちの楽塾は昨年開校10年目を迎えた。楽塾はくらし応援室の必要に迫られた創造の産物であり、大人のための、かつ暇つぶしのための学校である。

楽塾は会社公認のボランティアである。したがって楽塾の勝手な運営に任されている。開校当初必要な物品を購入してもらっているが、その後は参加者の会費である1000円の負担で賄われている。

内訳は500円が給食費、残りの500円を講師謝礼に備える。講師謝礼は一律2000円。また授業に必要な文具類、機器類の購入や、旅行、田植え作業、近郊散策交通費用など、負担の大きい経費の必要な際、余剰金のそれらを参加者に貸与したり還元のためにストックしている。当事者から金をとるという批判も無きにしもあらずではあったが、なんでもタダというバラまき意識を払しょくし、これからは自己投資という気持ちが必要だということを強調した。

年間を通じた寄付金は少ない。今はやりのファンドを募ることもない。必要な際は個別に補填する。行政的助成金なども申請しない。ただし７年前から、豊中市地域就労支援課の委託で、豊中楽塾(現『豊中居場所くらし応援室』)が事業化され、委託料は㈱ナイスの収益となっている。

|  |
| --- |
| 44年阿倍野区生れ。Gデザイナー、プランナーとして生計。95年の震災で経済、家族など生活基盤を喪失。2000年大淀寮入社。ホームレス自立支援活動に従事。02年西成区内在住の㈱ナイスに入社。ホームレスの就労・生活応援のための非営利部門『くらし応援室』を開設。また元ホームレスが、日常生活を取り戻す手立てとしての学校構想を提案し、08年『楽塾』開校。17年7月開校10周年目を迎えた。楽塾主宰：佐々木敏明 |

事務方協力者：田岡秀朋・安田拓也